

深く潜る。高く湧きあがる。
世界は変わる。いつもあなたの内側から。
一夜の静なる儀式。際立つような顔立ち印象を。
ポーラ最高峰クリーム

『B.A グランラグゼ O』誕生

株式会社 ポーラ（本社：東京都品川区、代表取締役社長：及川 美紀）は、ポーラ最高峰ブランド「B.A」のグランラグゼから初の、マスクを兼ね備えたクリーム『B.A グランラグゼ O』（50g ¥132,000 <税抜 ¥120,000>）を2024年10月1日に発売（旗艦店ポーラ ギンザでは8月1日に先行発売）します。

B.A グランラグゼは、初代が誕生した2006年以来、ポーラブランドの中で最高峰のアイテムとして、B.Aの根幹思想「バイオアクティブ理論^{*1}」のもと、時代の変化とともに進化してきました。

◆『B.A グランラグゼ O』の主な特長

【目指す肌】顔立ち印象際立つ。何度も触れたいくなる、輝き^{*2}に満たされたような、引き締まったハリ感を。

【成分】ポーラオリジナル保湿成分16種を配合。B.Aシリーズ最高の成分濃度^{*3}

新ポーラオリジナル複合保湿成分「時計草G0エキス^{*4}」の他、B.A、リンクルショット、ホワイトショットのアイテムと共通の保湿成分を配合。

【処方】

新開発『引き締めバウンスマスク処方』時間とともに弾力が高まりキープされ、直後も、眠る前も、翌朝もハリ感のあるベールを。

多相エマルションと単相エマルションの崩壊順序を自社従来品と逆転させることで、溶けなじみとマスク効果の両立を目指した「ポーラオリジナル逆崩壊性乳化^{*5}」によって、心地よく肌と一体化するように溶けなじみ、マスクのように引き締めるベールを形成。この処方を用いたオリジナル新乳化製法は、2024年1月にスタートした、ポーラ化成工業の新研究生産拠点「テクニカルディベロップメントセンター」が実現しました。これまでピーカーの中でしか生み出せなかった感触を、従来製法の約1/5の少量生産で可能に。[テクニカルディベロップメントセンター | ポーラ化成工業株式会社 - POLA R & M \(pola-rm.co.jp\)](https://www.pola-rm.co.jp)

【感性品質】包装、デザイン、アートワーク、感触、香りに至るまで、本来私たちが持っている感覚を研ぎ澄ますような感性価値を、サイエンス^{*6}と同様に追求しながら開発しています。



全国のポーラビューティーディレクター、コスメ&エステショップ「ポーラ ザ ビューティー」約470店舗・旗艦店「ポーラ ギンザ」・全国有名百貨店等ポーラコーナー83店舗を含む約2,700店、日本国内空港免税店コーナー11店舗、ポーラ公式オンラインストア (<https://www.pola.co.jp/ec/>) にてお取り扱いします。（2023年12月末時点）海外では、中国大陸・香港・台湾・マカオ・タイランド・シンガポール・韓国・マレーシア・インドネシアの9つの国と地域、中国（海南島）・ベトナム・オーストラリアの免税店にて順次発売予定です。

2024年10月1日発売

（ポーラ ギンザでは8月1日から先行発売）

B.A グランラグゼ O

<保湿クリーム・マスク>

50g ¥132,000（税抜 ¥120,000）

リフィル ¥127,600（税抜 ¥116,000）

◆アレルギーテスト済み（全ての方にアレルギーが起きないというわけではありません）

※1：人が本来持つ可能性を引き出す考え方のこと ※2：うるおいによるツヤ

※3：B.Aシリーズを代表する保湿成分32種合計の配合濃度（2024年10月時点のB.Aシリーズ内比較）

※4：クダモノトケイソウ果皮エキス、アーチチョーク葉エキス

※5：多相エマルションと単相エマルションの崩壊順序を自社従来品と逆転させることで、溶けなじみとマスク効果の両立を目指した乳化技術

※6：研究の着眼点や処方のこと



深く潜る。高く湧きあがる。

いま、美しさは、進化から深化へ。

はじまる、ポーラ最高峰のクリームから。

B.A グランラグゼ^オ、誕生。

創業から95年、ものづくりを深く究めるために。

肌を見つめる。常識さえも根底から見つめなおす。

その先でたどり着いた、理論がある。技術がある。

成分から香り、テクスチャーまで、独創のサイエンスを。

感動に満たされるように。

何度でもふれたくなるような、引き締まったハリ感をめざして。

際立つような顔立ち印象を。

深く潜る。だからこそ、高く湧きあがる。

世界は変わる。いつもあなたの内側から。

B.A grandluxe O



深く潜る。高く湧きあがる。
世界は変わる。いつもあなたの内側から。
一夜の静なる儀式。際立つような顔立ち印象を。
ポーラ最高峰クリーム

『B.A グランラグゼ^{オー} O』誕生

B.A グランラグゼは、初代が誕生した2006年以来、
ポーラブランドの中で最高峰のアイテムとして、
B.Aの根幹思想「バイオアクティブ理論^{*1}」のもと、時代の変化とともに進化してきました。
このたび、B.A グランラグゼから初のクリーム『B.A グランラグゼ O』が誕生します。

『B.A グランラグゼ O』は、これまで目指してきた
生命の本質である静と動の「連続性」により生まれる、美しさの良循環をさらに深め、
「静の時間」のまだ見ぬ新たな可能性に着目。
本来私たちが持っている感覚を研ぎ澄ますような感性価値を、
サイエンス^{*2}と同様に追求しながら開発しました。

新技術の「引き締めバウンスマスク処方」により、
時間とともに弾力が高まりキープされ、直後も、眠る前も、翌朝もハリ感のあるベールを。
顔立ち印象際立つ。何度も触れなくなる、輝き^{*3}に満たされたような、引き締まったハリ感を。
B.Aシリーズ最高の成分濃度^{*4}を誇る、マスクを兼ね備えたクリームです。

2024年10月1日発売
(ポーラ ギンザでは8月1日から先行発売)

B.A グランラグゼ^{オー} O

<保湿クリーム・マスク>

50g ￥132,000(税抜 ￥120,000)

リフィル ￥127,600(税抜 ￥116,000)

◆アレルギーテスト済み
(全ての方にアレルギーが起きないというわけではありません。)

製品名の
由来

「O(オー)」はグランラグゼが大切にしている考え方である、生命や美しさの循環を
その形で表現するとともに、驚きや喜びを表す感嘆詞としても使われることから、
グランラグゼ Oに触れる時間に驚きや喜びを感じていただきたい、という想いを込めました。

※1：人が本来持つ可能性を引き出す考え方のこと ※2：研究の着眼点や処方のこと ※3：うるおいによるツヤ
※4：B.Aシリーズを代表する保湿成分32種合計の配合濃度（2024年10月時点のB.Aシリーズ内比較）

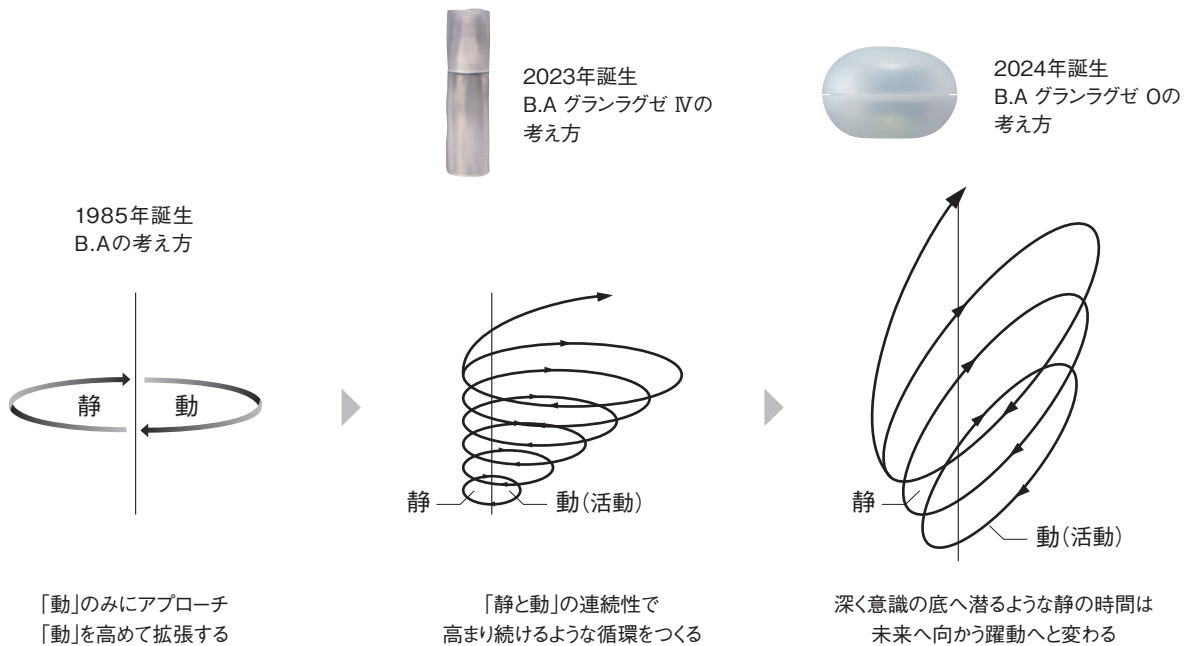


POLA

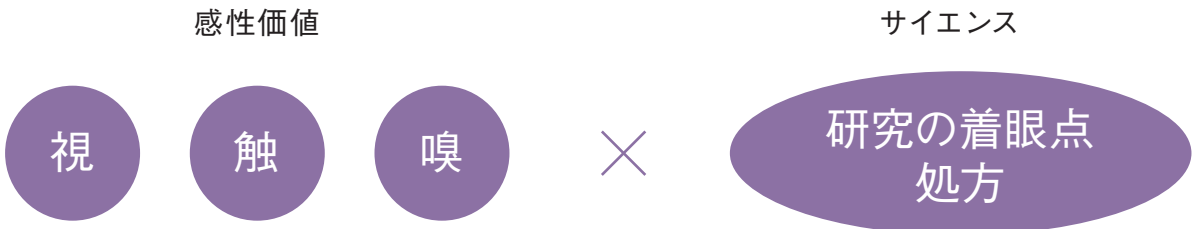
2023年に誕生したB.A グランラグゼ IVで着目したのは、生命の本質である静と動の「連続性」により生まれる、美しさの良循環です。これまで休息の時間と考えられていた「静の時間」の常識を問い直し、「静」へのアプローチによって、「静と動」の連続性で美しさが高まり続ける循環を目指して開発しました。

今回、B.A グランラグゼ Oでは「静の時間」のまだ見ぬ新たな可能性に着目。

表面をつくろい、競い合うかのように上へ上へと目指すのではなく、深く深く自分の奥へと潜り込み、自分の本質と向き合う対話の時間は、感性を覚醒させるように、自分の中にある思いもよらない創造性との出会いへとつながるのではないかと考えました。そこでB.A グランラグゼ Oは「深く意識の底へ潜るような静の時間は、未来へ向かう躍動へと変わる。」という新たな着眼点で、開発を進めました。



B.A グランラグゼ Oでは、本来私たちが持っている感覚を研ぎ澄ますような感性価値を、サイエンスと同様に追求しながら開発しています。



*画像はイメージです



[製品特長]

視

触

感性品質

包装

感謝の気持ちを込め、
包んで贈る日本の文化を大切に
した特別なパッケージ。
開封後はコンパクトに折り畳め、
廃棄される包材を可能な限り減らした
ミニマム設計。



デザイン

コンセプト:意識の深淵からの蘇生

静でありながら、触れると動き出しそうな内包された動のエネルギーを感じるような造形。夜明けの生命が目覚め躍動し始める瞬間をイメージした、多彩な表情を魅せるカラーリング。全て違う曲線で造り上げられた繊細な形状と、凝縮したエネルギーを感じさせるような重量感から、生命と密着するような、深い心地良さを追求しました。触れると人肌感のある持ち心地と重さで、手のひらで包み込むと寄り添うようにフィット。ふたを開ける動作にもこだわり、没入へ誘うようなスムーズな開閉設計。



アートワーク

B.Aの生命美を長年にわたり表現する世界的フラワーアーティスト東 信氏と、今回もブランドのアートに挑戦。生命の源である水とその中でたゆたう花々の融合により、「静」の時間の中に生命の「動」のエネルギーを表現しています。

B.A グランラグゼ Oでは、より深く、誰も到達したことのないような深淵の世界をアートワークに使用し、ただの暗闇ではなく、その奥から湧き起こる「上昇の兆し」や「覚醒の気配」などが感じられる世界を表現しています。



感触

「ディープバウンシータッチ」

たゆたうように心地よく、肌と一体化するように密着。
コクのある手ごたえへ変化し、肌を包み込むような引き締め感を。

B.A グランラグゼ Oの、クリームであり、
マスクでもある剤形で目指した、
深い落ち着きと没入へ誘うようなテクスチャー。



POLA

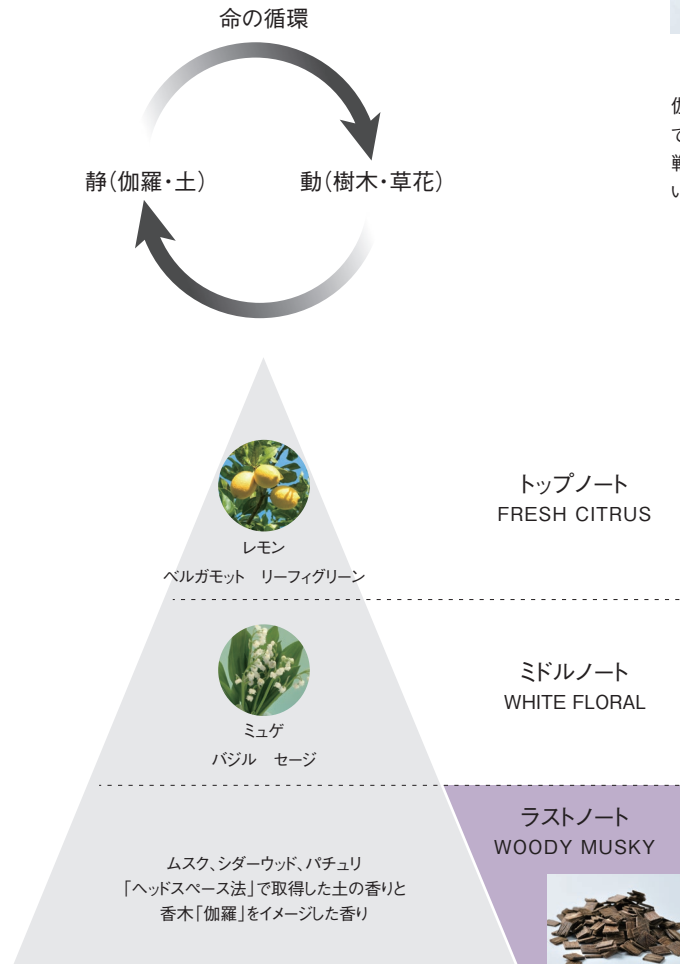
香り

B.A グランラグゼ共通「アーシミュージアム」をベースに、より深い没入を促すような香木「伽羅」をイメージした香りをプラス。静かに生命を育む土から、動のエネルギーがみなぎる樹木や草花へと命が循環するさまをイメージし表現した香り。



伽羅

伽羅は沈香の中でも特に高級な香木で、日本でも昔から貴重な香木として戦国武将や貴族などが好んで焚いていたといわれています。



*画像はイメージです

B.A グランラグゼ IV同様に、土を思わせるような香りにはヘッドスペース法を採用しています。

ヘッドスペース法

植物などを伐採したり傷つけることなく香りを採取・分析し、合成香料にて再調香する手法。

植物の周りに漂う香りを採取するため、植物を傷つけず、さらにその場にいるような自然な香りを作ることが可能。人の手が加わっていない、箱根の森にあるリアルな土の香り成分を採取。



土から漂う香り成分をガラス容器にため込んでいる様子



[製品特長]

一夜の静なる儀式。際立つような顔立ち印象を。
ポーラオリジナル保湿成分16種を配合。
B.Aシリーズ最高の成分濃度^{*1}クリーム・マスク

目指す肌

顔立ち印象際立つ。何度も触れなくなる、輝き^{*2}に満たされたような、引き締まったハリ感を。

成分

NEW

ポーラオリジナル複合保湿成分「トケイソウジーゼロ時計草GOエキス^{*3}」を配合。



国産クダモノトケイソウのジュースやジャムなどの加工時に廃棄される果皮をアップサイクルしたエキスを使用。

B.A、リンクルショット、ホワイトショットのアイテムと共通の保湿成分を配合。

◆ ポーラオリジナル複合保湿成分

ヒメガマジーゼロ

「姫蒲GOエキス」⇒ B.A グランラグゼ IV <美容液・乳液> 共通

「白桜バークV」⇒ B.A ミルク フォーム <保湿乳液・美容液> 共通

「Sプロテインリキッド」⇒ リンクルショット ジオ セラム プロティアン^{*4} 共通

「BAコアリキッド」「仙人穀ロスマ」⇒ B.A スキンケア 共通

「BPルミナエキス」⇒ B.A セラム プリズルミナ^{*5} 共通

「ディープラスター」「MPクリアリキッド」⇒ ホワイトショット フェイシャルセラム^{*6} 共通

◆ ポーラオリジナル保湿成分

「ゴールデンLP」「セルエンスAC」⇒ B.A スキンケア 共通

「SCリキッド」⇒ ホワイトショット スキンケア 共通

「YACエキス」「EGクリアエキス」⇒ B.A スキンケア、ホワイトショット スキンケア 共通

「プレインクrostークRU」⇒ B.A グランラグゼ IV <美容液・乳液> 共通

「R.Cエキス」⇒ V リゾネイティッククリーム 共通

^{*1}: B.Aシリーズを代表する保湿成分32種合計の配合濃度 (2024年10月時点のB.Aシリーズ内比較)

^{*2}: うるおいによるツヤ

^{*3}: クダモノトケイソウ果皮エキス、アーチチョーク葉エキス

^{*4}: 販売名 ポーラ WRS セラム N (医薬部外品)

^{*5}: 販売名 ポーラ B.A セラム プリズルミナ (医薬部外品)

^{*6}: 販売名 ポーラ WSフェイシャルセラム (医薬部外品)

*画像はイメージです

POLA



[製品特長]

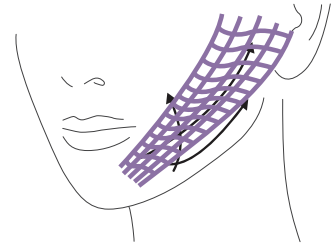
処方

時間とともに弾力が高まりキープされ、直後も、眠る前も、翌朝もハリ感のあるベールを。引き締めバウンスマスク処方

何度も触れたいくなる、輝き*1に満たされたような、引き締まったハリ感を目指すために、新たに「引き締めバウンスマスク処方」を開発しました。

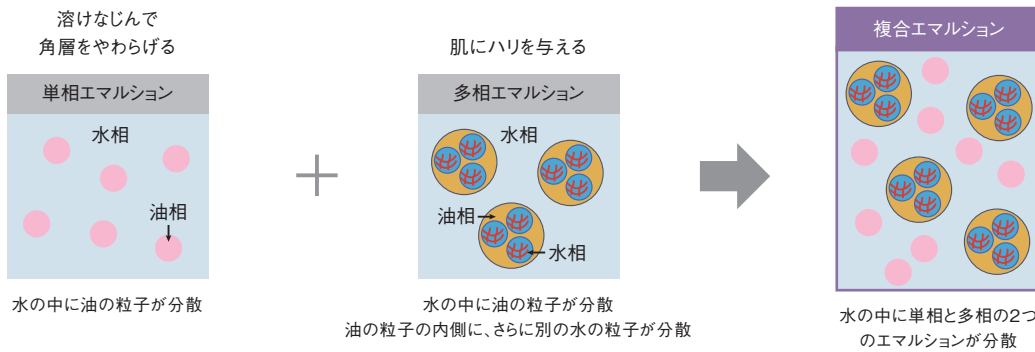
引き締めバウンスマスク処方

多相エマルジョンと単相エマルジョンの崩壊順序を自社従来品と逆転させることで、溶けなじみとマスク効果の両立を目指した「ポーラオリジナル逆崩壊性乳化*2」によって、心地よく肌と一体化するように溶けなじみ、マスクのように引き締めるベールを形成。時間とともに弾力が高まりキープされ、直後も、眠る前も、翌朝もハリ感のあるベールを。

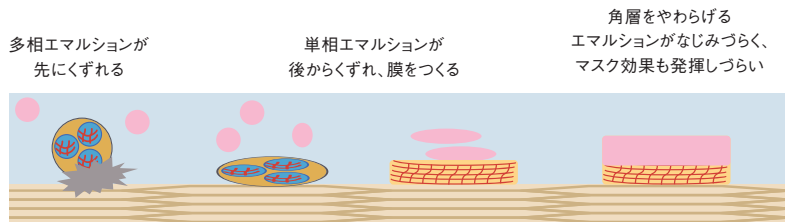


【エマルジョン構造】

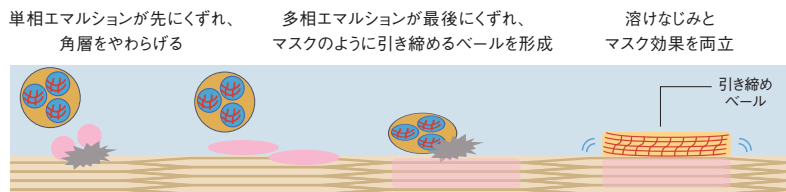
水の中に油が分散した単相エマルジョンと、油の粒子の内側に別の水の粒子が分散した多相エマルジョンを組み合わせた複合エマルジョン構造を採用。異なる役割や感触を持つエマルジョンを組み合わせ、変化感のある使用感を目指しました。



ポーラ従来品の塗布時イメージ



新「引き締めバウンスマスク処方」の塗布時イメージ
(ポーラオリジナル逆崩壊性乳化)



この処方を用いたオリジナル新乳化製法は、2024年1月にスタートした、ポーラ化成工業の新研究生産拠点「テクニカルディベロップメントセンター」が実現しました。これまでピーカーの中でしか生み出せなかった感触を、従来製法の約1/5の少量生産で可能に。

◆テクニカルディベロップメントセンター <https://www.pola-rm.co.jp/tdc/>



*1: うるおいによるツヤ *2: 多相エマルジョンと単相エマルジョンの崩壊順序を自社従来品と逆転させることで、溶けなじみとマスク効果の両立を目指した乳化技術

*イラストはイメージです



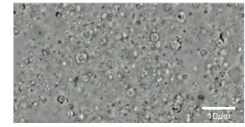
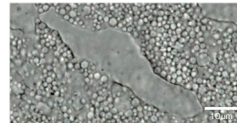
[製品特長]

右のデータはポーラオリジナル逆崩壊性乳化^{*1}における単相エマルジョンと多相エマルジョンの崩壊状態を示すものです。単相エマルジョンと多相エマルジョンをそれぞれ腕に塗り、指で伸ばす動作を15回行った時の崩壊の状態を表した画像です。左側の単相エマルジョンはエマルジョンが崩壊し、オイルが出ていますが、右側の多相エマルジョンはエマルジョンが維持されています。このことから、ポーラオリジナル逆崩壊性乳化では多相エマルジョンは単相エマルジョンより壊れにくいことが示唆されます。

<同じ回数なじませたときのエマルジョンの状態>

単相エマルジョンのみ

多相エマルジョンのみ



エマルジョンが壊れ、
オイルが出てきている

エマルジョンが
壊れていない

ポーラオリジナル逆崩壊性乳化で作った単相エマルジョンと多相エマルジョンをそれぞれ腕に塗り、指で伸ばす塗布動作を15回行った後、顕微鏡で観察

(B.Aリサーチセンター調べ)

右は、多相エマルジョンに配合しているオイルの感触変化を示しています。

常温でクリーム中に存在しているときは固形でクリームのコクを保っていますが、塗布すると肌温度でとろけ、液状に変化。時間がたつとまた固形に変化します。このオイルを配合し、ハリ感のある感触を目指しました。

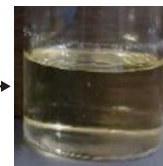
常温にあるオイルを60℃程度に加熱(オイル単体では、肌とほぼ同じ温度(32℃)の環境に放置しても溶けないが、手で温めることで徐々に溶ける性質があるため、実験では60℃程度まで加熱)後、室温に放置し再び常温に戻す

<多相エマルジョン配合オイルの形状変化>

硬く
コクを保つ

肌の温度で
とろけて液状に

固まって
弾力アップ



塗布前(常温)

塗布中

時間が経過

(B.Aリサーチセンター調べ)

【「早く」と「ゆっくり」を両立する時間差放出処方】

B.A グランラグゼ IVと共通で、うるおいを時間差で放出する処方を採用。保湿成分を含んだ水系成分を「早く」放出するクイックキャリアと、「ゆっくり」放出するスローキャリアで共存させることで、うるおいを肌^{*2}に浸透させることを目指します。

塗布後、早く放出するクイックキャリア



塗布後ゆっくりと放出するスローキャリア



*1:多相エマルジョンと単相エマルジョンの崩壊順序を自社従来品と逆転させることで、溶けなじみとマスク効果の両立を目指した乳化技術

*2:角層

*イラストはイメージです

使用方法



テクスチャーと香りを堪能し、感覚を研ぎ澄ますようにスキンケアに没入するメソッド



適量(大きめの真珠1粒位)を手にとり、手のひらをこすり合わせてあたため、両ほほを手のひらで密閉するようにやさしく包み込みます。

次に目を閉じ、両目と両ほほを手のひらで密閉するようにやさしく包み込みます。

額とあごも同様に行います。

このとき、香りを感じるように、深い呼吸とともに行います。

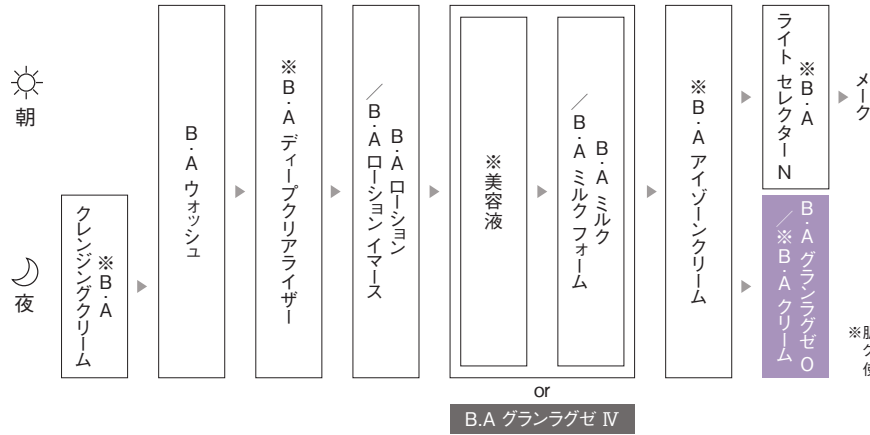
スパチュラは使用后、ティッシュペーパーなどでふき取り、清潔に保管してください。自立するため、容器と一緒に立てて保管することができます。



*イラストはイメージです

POLA

使用ステップ



※肌の悩み・状態に合わせてお使いください。
クレンジングクリームは、メイク・UVカット品
使用時は必ずお使いください。

社会・地球環境への取り組み

商品外箱



生物由来のインクを採用

生物由来の資源(バイオマス)から成分を抽出して製造したインクを一部使用し、箱への印字を行うことで、生態系の保護に繋げる。

森林認証紙を採用

適切な森林管理のもとに作られた木材を使用した、森林認証紙を採用。

容器



植物由来のPETを採用

植物由来のPETを一部に使用し、化石資源の保護や二酸化炭素の削減に貢献。

※PET: ポリエチレンテレフタレート

パンフレット



WEBパンフレットを採用

ペーパーレスへの取り組みとして、紙のパンフレットを廃止し、箱に記載されたQRコードを読み込むことで使用方法、全成分表示、使用方法動画が閲覧可能なWEBパンフレットを採用。

※使用方法・使用量などは外箱にも記載があります。
※5言語対応(日本語・英語・繁体字・簡体字・タイ語)

主な配合成分

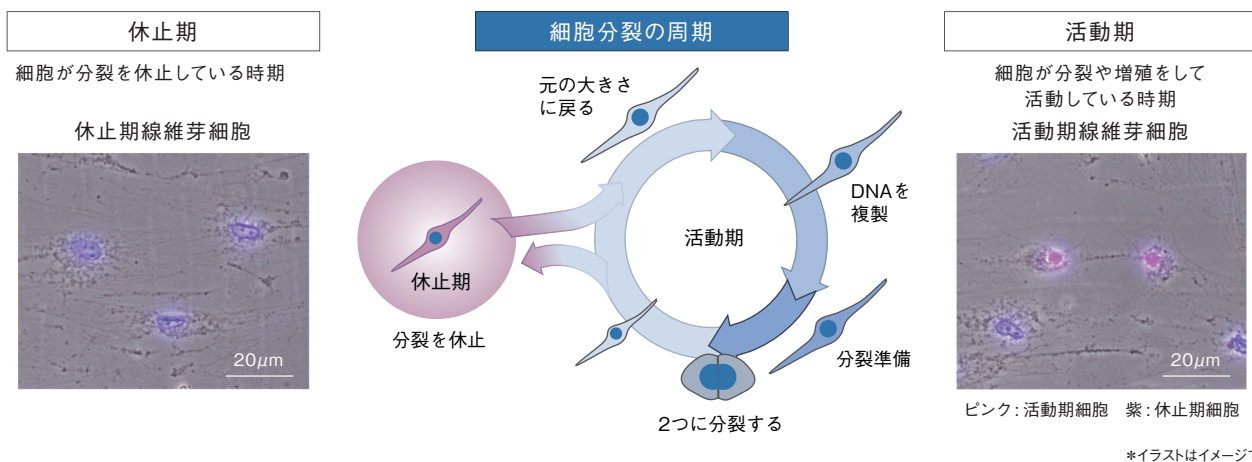
配合目的	配合成分	全成分表示名称
保湿成分	時計草GOエキス*	クダモノトケイソウ果皮エキス、アーチチョーク葉エキス
	姫蒲GOエキス*	ヒメガマ穂エキス、カミツレ花エキス
	白桜パークV*	ヨーロッパシラカバ樹皮エキス、オウレン根茎エキス
	仙人穀ロスマ*	センニンコク種子エキス、セージ葉エキス
	BAコアリキッド*	イガイグリコーゲン、ヘチマ果実/葉/茎エキス、チョウジエキス、イザヨイバラエキス、加水分解コンキオリン
	EGクリアエキス*	レンゲソウエキス
	YACエキス*	ヨモギ葉エキス
	ゴールデンLP*	加水分解シルク
	BPルミナエキス*	ショウブ根茎エキス、マヨラナ葉エキス、クララ根エキス
	ディーブラスター*	オウゴン根エキス、アサガオカラクサエキス
	MPクリアリキッド*	センブリエキス、ショウブ根茎エキス
	R.Cエキス*	ノイバラ果実エキス
	セルエンスAC*	アマチャエキス
	SCRキッド*	ビワ葉エキス
	Sプロテインリキッド*	ユキノシタエキス、ヒキオコシ葉/茎エキス、加水分解ローヤルゼリータンパク
ブレインクロストークRU*	カシア樹皮エキス	

※は、ポーラオリジナル複合成分またはポーラオリジナル成分。 ◆アレルギーテスト済み(全ての方にアレルギーが起きないというわけではありません)

[別添 / ポーラの研究]

B.Aリサーチセンターは、人の可能性をさらに広げるため、細胞が分裂を休止している「細胞の休止期」に着目してきました。休止期では細胞が盛んに分裂している活動期と比べて、細胞の活動が低下する傾向にあることが知られています。B.Aリサーチセンターはこれまでに、真皮線維芽細胞には休止期に産生が高まるコラーゲン「コラーゲン6」があることを発見。

コラーゲン6は、肌全域の組織同士を結合して肌構造を強固にするだけでなく、ヒトの真皮線維芽細胞でオートファジーを活性化させることも発見しています。



新発見

休止期に多く産生されるタンパク質「F13A」

B.Aリサーチセンターは、休止期の線維芽細胞が他にどのような特徴をもつかさらに詳しく研究したところ、休止期に、「F13A」というタンパク質の発現が増え、線維芽細胞の働きに重要な役割を果たしていることを新たに発見しました。F13Aは、傷を治す過程で働くことが知られているタンパク質ですが、研究により新たな機能が明らかになりました。

F13Aは3つの機能を活性化 ① DNA損傷の修復 ② 細胞増殖 ③ コラーゲン産生

< 休止期に「DNA損傷を修復」し、活動期の「細胞機能を飛躍的に覚醒」させる >



細胞の休止期でF13Aが増えることにより、DNA損傷の修復が活性化。

さらに、活動期での細胞を覚醒して、細胞増殖とコラーゲン産生が活性化されます。

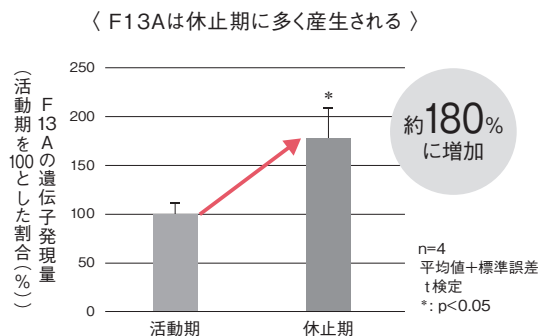
細胞の休止期でのF13Aが、活動期の細胞を飛躍的に覚醒させ、細胞の良循環を生み出すと考えられます。

(B.Aリサーチセンター調べ)

POLA

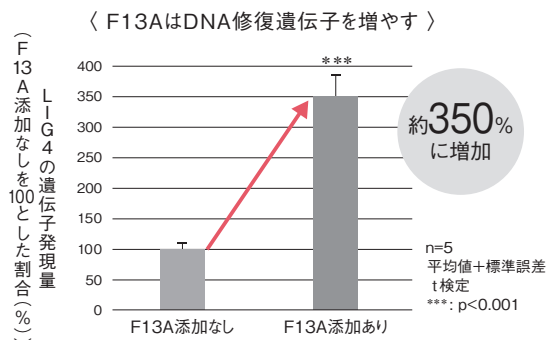
[別添 / ポーラの研究]

下のグラフは活動期と休止期におけるF13Aの産生量の比較です。活動期と比べ、休止期では約180%に増えていることがわかります。



休止期に導く条件で線維芽細胞を培養し、F13Aの遺伝子発現量を調べた。

下のグラフでは、F13AによりDNA修復遺伝子の発現が、F13Aの添加のないときに比べて約350%に増えていることがわかります。

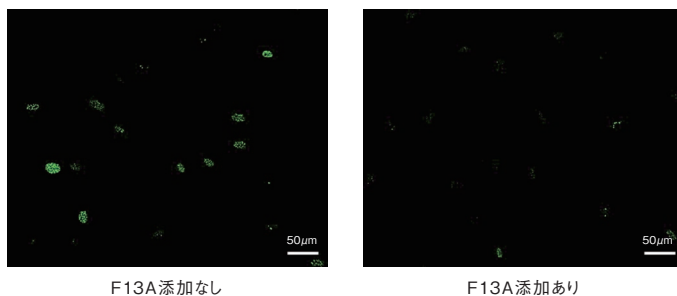


休止期に導く条件で培養した線維芽細胞にF13Aタンパク質を添加し、DNA修復に関わるタンパク質の例としてDNA ligase 4(LIG4)の遺伝子発現量を確認した。

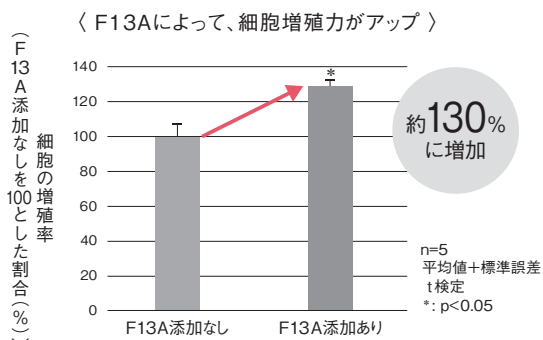
右のデータは、DNA損傷量を示すものです。緑色の部分は、線維芽細胞の細胞核内のDNA損傷部位ですが、F13AによりDNAの損傷量が減少していることがわかります。

緑: 細胞核の中のDNA損傷部位
DNA二本鎖切断が起きた損傷部位を試薬で染色した。

〈 F13Aによって、DNAが修復されている 〉

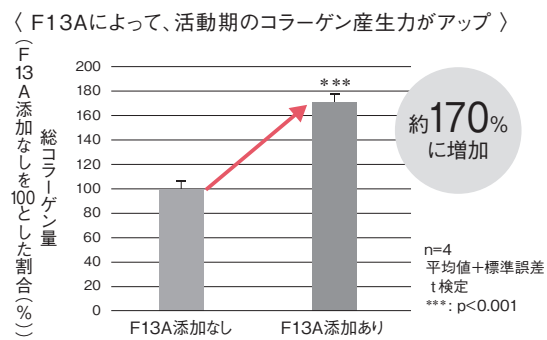


下のグラフでは、F13Aにより活動期の細胞増殖力が約130%に増えていることがわかります。



休止期に導く条件で培養した線維芽細胞にF13Aタンパク質を添加し、その後活動期に導き、3日間の細胞の増殖率を解析した。

下のグラフでは、F13Aにより活動期のコラーゲン産生量が約170%に増えていることがわかります。



線維芽細胞にF13Aタンパク質を添加して培養し、総コラーゲン量を解析した。

(すべてB.A リサーチセンター調べ)